

特別区民税収入 決算額の推移

予算特別委員会
追加資料 10
平成29年3月22日

単位：千円

() 内は対前年度増減率

年 度	特別区民税
平成19年度	11,372,040
平成20年度	11,801,041 (3.8%)
平成21年度	11,295,994 (▲4.3%)
平成22年度	10,702,216 (▲5.3%)
平成23年度	11,280,522 (5.4%)
平成24年度	10,843,779 (▲3.9%)
平成25年度	11,328,712 (4.5%)
平成26年度	12,708,033 (12.2%)
平成27年度	13,455,541 (5.9%)

110億



130億

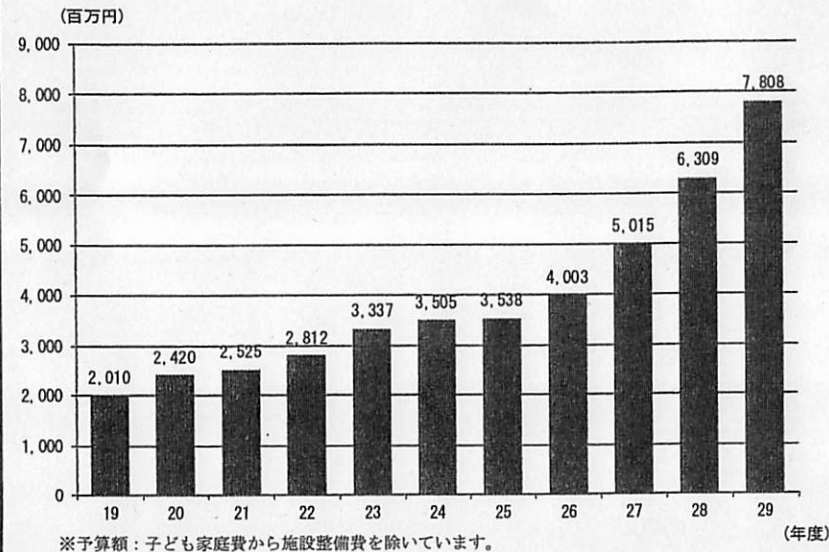
147億

収入
+40億

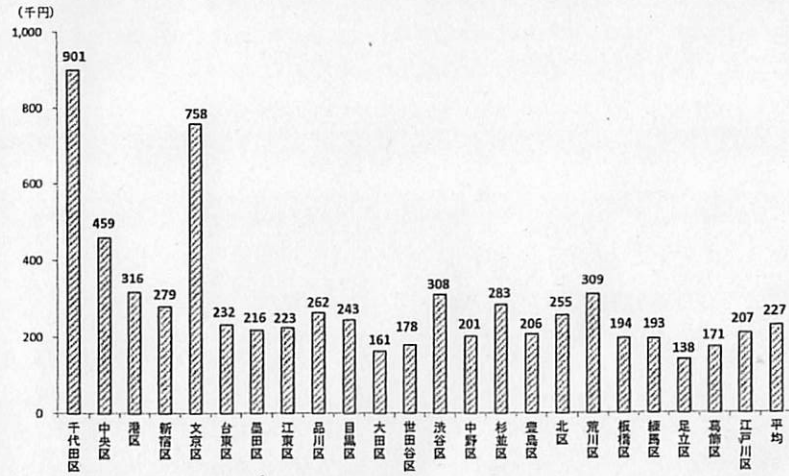
H28

次世代育成に関する取組み

● 子育て関連予算額の推移

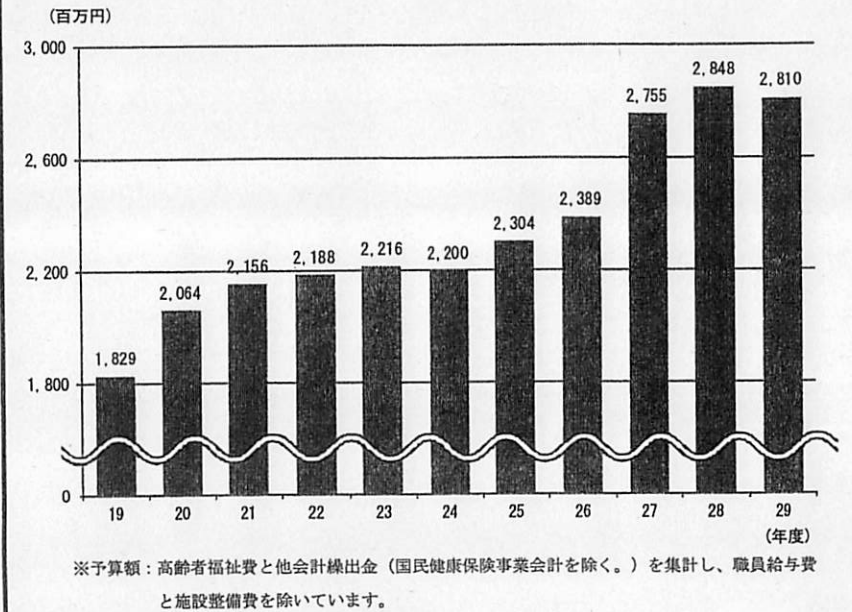


● 児童・生徒1人あたりの小・中学校費決算額23区比較(平成27年度決算)

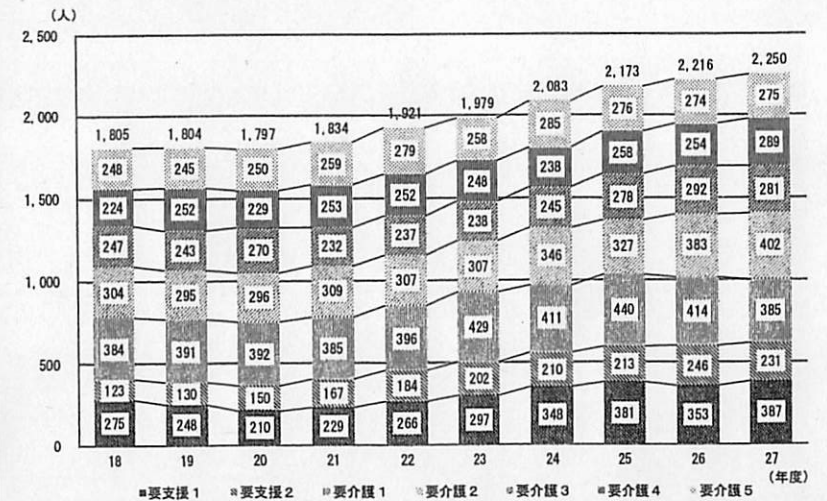


保健福祉に関する取組み

● 高齢者のための福祉サービス予算額の推移



● 要介護認定者の推移(各年度末時点)



【別紙】

平成 25 年度人口推計報告書 推計結果

(1) 将来の想定人口

千代田区の人口は、東京オリンピック開催年でもある平成 32 年時点で6万人を、10年後の平成 37 年には6万5千人を超える見通しである。特に、45 歳以上の生産年齢人口、学齢期（6～14 歳）人口の伸びが大きい。

① 乳幼児人口（0～5 歳）

平成 32 年まで増加が続き、それ以降、平成 37 年までは 2,900 人近傍で推移する見通し。地区別にみると、麹町地区では伸びに勢いがあるものの、5 年程度で鎮静化する見通しであるが、神田地区においては、緩やかながらその後も増加が見込まれるため、留意する必要がある。

② 学齢期人口（6～14 歳）

平成 37 年まで一貫して増加する見通し。

③ 生産年齢人口（15～64 歳）

平成 37 年まで一貫して増加する見通し。特に、45 歳以上の年齢層の伸びが大きい。

④ 高齢者人口（65 歳以上）

他の年齢層と比べて緩やかではあるが、平成 37 年まで一貫して増加する見通し。

千代田区の将来人口推計 (人)

	H22	H27	H32	H37
総人口	46,367	52,703	60,066	65,541
乳幼児（0-5歳）	1,969	2,609	2,962	2,903
学齢期（6-14歳）	3,014	3,370	4,361	5,090
生産年齢（15-64歳）	32,440	36,811	42,381	46,575
高齢者（65歳以上）	8,944	9,913	10,362	10,973

(2) 人口構成の変化

高齢化率については、全国的には高齢化が顕著であるが、千代田区においては引き続き、年少、生産年齢の各層も増加するため、平成 37 年時点では、人口構成に大きな変化は見られない。ただし、高齢者数が著実に増加する傾向にある点は、留意する必要がある。

人口構成の変化

	H22	H27	H32	H37
年少（0-14歳）	10.7%	11.3%	12.2%	12.2%
生産年齢（15-64歳）	70.0%	69.8%	70.6%	71.1%
高齢者（65歳以上）	19.3%	18.8%	17.3%	16.7%

(3) 将来の想定世帯数

① 総世帯数

千代田区の将来人口推計による千代田区の総世帯数については、平成 29 年には 3 万世帯を、平成 37 年には 3 万 6 千世帯を超えることが見込まれる。

② 単身世帯数

単身世帯数については、計画期間である平成 37 年まで一貫して増加する見通しであり、平成 37 年時点では、1 万 9 千世帯を超える見込みである。

③ 高齢単身世帯数

高齢単身世帯数についても、平成 37 年まで一貫して増加する見通しであり、平成 37 年時点の世帯数は、3,200 世帯となる見込みである。

想定世帯数 (世帯)

	H22	H27	H32	H37
総世帯数	25,459	28,669	32,743	36,050
単身世帯数	13,836	15,091	17,272	19,098
うち高齢単身世帯数	2,467	2,716	2,927	3,196

(4) 世帯構成の変化

高齢単身世帯比率は、平成 37 年頃まで大きな変化はみられない。

ただし、今後の高齢者の増加により、高齢単身世帯も急速に増加する可能性がある。

世帯構成の変化

	H22	H27	H32	H37
高齢単身世帯率	9.7%	9.5%	8.9%	8.9%